

# 世界に挑む。 レフェリーとして。

チームジャパンのために  
努力・誠実・挑戦・感謝



## UWW 国際審判員になるためのガイドライン【日本版】

### 1. 【国内認定資格】を取得

- 日本では「A 級」審判が対象。
- 「国内最高級」の審判のみを候補者として承認。

### 2. 【日本レスリング協会からの推薦】と年齢条件

- 年齢は 20 歳以上 40 歳以下。
- 推薦を受けるには、高レベルの国内大会に継続参加。
- 高度な審判技術と姿勢を常に発揮していること。
- 国内で英語での講義と筆記試験を実施。

### 3. 【UWW Academy (UWW サイト)】の受講

- 国際試験に向けて、英語での動画やルール解説を予習する。

### 4. 【Level 1 試験】に参加

- UWW 国際大会で、以下の 3 項目に合格する必要がある：
  - ・英語によるルール理解（口頭試験）
  - ・筆記試験（理論とビデオ判定）
  - ・審判実技試験（実際の試合での審判）
- → 合格者は Category III ライセンスを取得。

## 5. 【英語力は必須】

- 国際大会では、英語でのルール理解と説明力が求められる。
- 英語力不足は、合格や昇格の障害となる可能性がある。
- オリンピック審判には、英語力が絶対条件。

## 6. 【職場の理解、家庭の支援】が重要

- 国際大会は長期間の渡航となる場合がある。
- 仕事の調整や費用の負担も発生することがある。
- 「なったら終わり」ではなく、継続のための努力が重要。

## 7. 【各カテゴリーごとの活動義務に注意】

- 各カテゴリーごとに、年に最低限参加すべき国際大会が定められている。
- 怠ると降格や資格失効のリスクがある。
- カテゴリー別：年間の審判活動義務

カテゴリー	年間義務	不履行時の対応
IS（最上位）	年に2回以上のコントロール大会への参加が義務。うち1回は自大陸のシニア選手権が必須（例：アジア選手権） 対象大会：世界選手権、ワールドカップ、U17～U23 世界選手権	義務を満たさない場合、降格される。
I	年に2大会以上の国際大会、またはU17～U23/シニアの大陸・世界選手権のいずれかに参加	不参加の場合、降格される。
II	年に1回以上のUWW公認国際大会への参加	不参加の場合、降格される。
III	年に1回以上のUWW国際大会への参加が必要。 2年間連続で不参加だと国際審判資格を失効	1年目：警告文書 2年目：最終警告、さらに翌年も不参加で資格剥奪

## 【その他の要注意点】

- ライセンスを連続して未更新 → 資格失効の可能性。
- 判定が「不適切」または「不十分」と評価 → 降格の可能性。
- 常に「日本チームの一員」としての自覚を持って行動すること。

## 【まとめ】

- 国内認定 → 推薦 → UWW Academy → 国際試験（英語・筆記・実技）
- 英語力は必須、職場や家庭の理解も重要。
- 受験後も継続する労力と向上心が求められる職務である。